



東京大学法学部、シカゴ大学政治学部卒、MA、郵政省通信政策局次長、国際部長、総務審議官、郵務局長、審議官など歴任、1999年より、国際電気通信連合 (ITU) 事務総局長。

ITU事務総局長2期目の任期も終わろうとしている。この8年、ITU本部があるジュネーブ・レマン湖の湖面には、どのような日本像が映っていたのだろうか。事務総局長の椅子から見えてきたことを、エッセイ風に何回かの連載にまとめていただくことにした。(編集部)



ITU本部ジュネーブ

### 生かしたい選挙戦の経験

この秋には、国連の事務総長の選挙がある。国際選挙としては、最高最大の選挙で、誰が選ばれるかにより、これからの国際政治に大きな影響がある。特に、今回は、アジアの順番だという暗黙の理解があるので、なお更多くの方の関心事である。

国際電気通信連合 (ITU) でも、2期の任期を終える私の後任をはじめ、他の選挙職の改選が行われる。そして、日本から、NTTの井上友二氏が標準化局長に立候補されている。ITUの標準化活動は、日本の情報通信産業の将来に大きな影響を与える重要なものである。その活動を支える標準化局長のポストを日本から出すということは大変意義深いものがある。是非とも当選していただきたいと考えている。

国際選挙は、各国際機関によって、選挙制度が異なり、選挙戦のやり方も、当然大きく異なる。誰しもわが国出身の候補者の当選を願って協力したいと思う

## 過去の全権委員会議で 派手なパーティーをした 候補者は全員落選した



アナン国連事務総長と

ものであるが、選挙戦を有利に導くためには、その機関の特徴をよく理解しておかなければならない。私の事務総局長選挙戦の経験や、他の選挙の情報が、井上氏の選挙に少しでもお役に立つとありがたい。

### 反感を受けないことが肝要

ITUでは、大国も小国も選挙権を一

票ずつ持っており、全権委員会議の会場で投票が行われる。秘密投票なので、どの国が誰に投票したかは誰にも分からない。予定されていた票数が得られなく落選した国が、外交ルートで約束されていたのにどうして票が得られなかったか分からないと嘆くことが何度もある。国レベルの約束は何の保証もないのである。また、実際に投票する人たちに対する配慮に欠けていたために起きた出来事でもある。私は、幸い全権委員会議等、ITUの活動に積極的に出席し、知人が多く、彼らの個人的な支持を得ていた。実際の投票数は、ほぼ公式の票読みと同じであった。

候補者自らが、これらの投票する人たち全員に当たるのは困難であるが、彼らに好印象を与えることが重要である。それには、候補者がかもし出すイメージが重要であり、少なくとも、誰に対しても笑顔で接し、反感を受けないことが肝要であろう。また、周囲の者も、候補者のイメージ作り、すなわち口コミで、よい評判を流すことが重要である。

### 目立つ行動は落選につながる

事務総局長といえども、加盟国に奉仕する International Civil Servant である。特に、電波の割り当てや標準化活動など、加盟国同士の合意を作る場であるITUは、伝統的に、指導力のある事務方を嫌う。実際のITUの運営では、本当は、管理能力や指導力が要求されるのであるが、加盟国は、彼らの“下僕”と

なるイエスマンを好む。したがって、過去の選挙で、派手な選挙戦をしたり、目立つ行動に出た候補は、大方落選をしている。応援団が強力な日本の候補の場合、ローキーで行動するということが、国内対策上難しいことが多い。しかし、過去の全権委員会議で派手なパーティーをした候補者は、全員落選したことを肝に命じておく必要がある。

なんといっても投票者は、候補者の資質を問題にする。しかし、ITUで活躍歴の少ない候補者は、履歴書の経歴で判断する以外に資質の判断材料がない。しかも、国内での経歴と国際の場での活動能力とは、必ずしも関係が強いとはいえない。私の場合は、京都全権委員会議の議長職に成功したことで、一部の国からの勧めで立候補しものであるが、投票者に良く知られているということは、必ずしも有利に働くわけではない。未知の候補者のほうが、欠点分らず、また敵もいなく、加盟国の期待も高まるもので、むしろ無名は選挙に有利に働くことになる。実際に、ITUでは、突如立候補を宣言した、多くの無名の候補者が何の努力もなく当選してきているのである。その意味では、井上候補は有利な立場にある。

### 大きな原理は地域バランス

各局長レベルの選挙では、投票者が候補者を深く検討することなく、その場の雰囲気投票することが多い。そのとき働く大きな原理は、地域バランスであ

る。事務総長が先進国から当選すれば、次長は、開発途上国から、また、各局長は、その他の地域からという具合である。投票前に地域バランスを考えた、候補者の組み合わせがよく議論される。そのため、ある組み合わせに属すると見られると、他の組み合わせのグループからの票が得にくくなる。したがって、最後まで、全方位外交を成し遂げないと多くの票が集まらない。これは大変むつかしことである。ある国から相互支持を提案されると、提案に合意したとたんに、敵方のグループの票を失い、ことわると、そのグループの票を失う。口をパクパクして、言語能力喪失になってしまう難しい局面が続く。

### 「援助の約束」は禁物だ

しかし、なんと言っても国際選挙は、加盟国が行うものである。国レベルで支持がなければどうしようもない。ありがたいことに日本は、海外援助をはじめ、過去に多くの外交努力をしてきているので、どのような選挙でも日本を支持するという国が多い。過去の日本外交の蓄積の賜物である。また、この際、日本候補を支持することで、何がしかの見返りを期待する国も多い。そのような国レベルでの合意が国際機関の選挙の基本になる。

選挙期間中は、当選のことばかりを考えて手段を選ばないということがあり得るが、最も重要なことは、当選した後、任務をつつがなく遂行できることであ

る。選挙期間中に、票との引き換えにポストや、援助の約束など、多くの誘惑がある。これらの誘惑に負けると、後になって、本人だけではなく日本国の名誉を失いかねないことになる。よく、「国際選挙は選挙管理法がないので、何でもできる」という人がいるが、これは大きな間違いである。敵は、常にこの罠に陥るのを、息を吞んで待っているのである。

### 地球人としての行動

日本国も、東洋の片隅の島国ではない。世界の3分の1の経済活動を担っている大国である。「日本」の発展成長を考えるのではなく、「世界」の発展成長に責任がある国なのである。実は、日本国民の、国内でのそれぞれの行動は、すでに、世界の場での、地球人としての行動になっているのである。

誰もが、どこからでも、公平に情報にアクセスできる情報社会の実現は、実質的な平等を願う人類の夢の実現である。2度にわたって国連情報社会サミットを成功させたITUは、もはや単なる専門家のためだけの技術機関ではない。情報社会を実現するための機関車の役割を演じることが期待されている。

ITUの重職につくことは、いわば世界的な責務を担っている日本人の象徴のようなものである。井上候補の当選を心からお祈り申し上げます。